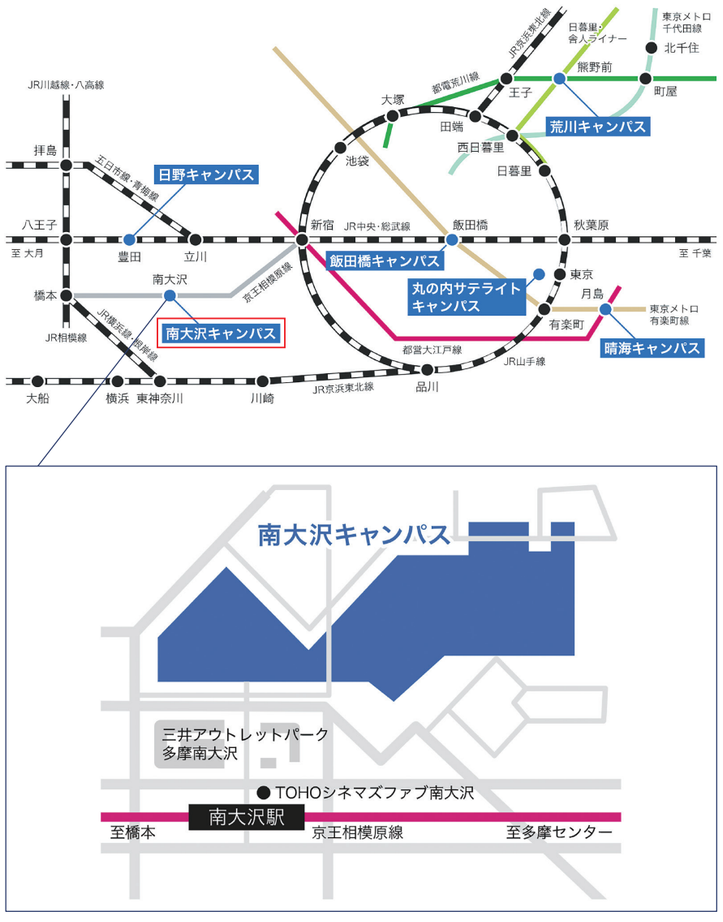
Access

東京都立大学 南大沢キャンパス



所在地：〒192-0397 東京都八王子市南大沢1-1

TOKYO METROPOLITAN UNIVERSITY
東京都立大学

お問い合わせ

東京都立大学管理部 生涯学習推進課
プレミアム・カレッジ企画運営係
TEL. 042-677-1111（代）
※9:00～17:00（土・日・祝日を除く）

www.pc.tmu.ac.jp プレミアム・カレッジ 検索

カレッジ案内2027

College Guide Book



TOKYO METROPOLITAN UNIVERSITY
東京都立大学

学ぶたび、新しい自分に出会う

生涯学べる100歳大学

東京都立大学 プレミアム・カレッジ

Premium College
Tokyo Metropolitan University

南大沢キャンパスではじめる、50歳からの新たな学び

東京都立大学プレミアム・カレッジは、様々な経験を積んだ、50歳以上のプレミアム世代※の方々に向けて、新しい学びのスタイルを提案します。総合大学である東京都立大学が有する豊かな教育研究資源や、東京都との緊密な連携により、ほかでは経験できない学びと交流の場を提供します。

※プレミアム世代とは

人生100年時代を迎えようとする中、豊富な時間を自らの意思により活用し、行動することができる世代、より豊かで多様な生き方を過ごすことができる世代、それがこれからの50歳以上の方々と考えます。50歳以上のプレミアム世代の皆様方が、より豊かで充実した、活力ある「プレミアム」な暮らしを送るため、東京都立大学プレミアム・カレッジが、一つの場、契機となれるよう、取り組みを進めてまいります。



Contents

東京都立大学プレミアム・カレッジの特徴	P.2
ご挨拶 東京都立大学プレミアム・カレッジ カレッジ長、東京都立大学学長	P.4
東京都立大学プレミアム・カレッジの教育（3つのポリシー）～「求める学生像」等～	P.5
カリキュラムの概要	P.6
カリキュラムの構成	P.7
カリキュラムの内容（授業科目の概要）	P.8
ゼミナール担当教員からのメッセージ	P.17
東京都立大学プレミアム・カレッジでの学生生活について	P.21
東京都立大学プレミアム・カレッジでの過ごし方（イメージ）	P.23
東京都立大学プレミアム・カレッジ生の声	P.24
東京都立大学プレミアム・カレッジ修了生の声	P.25
キャンパス紹介（東京都立大学 南大沢キャンパス）	P.26
年間スケジュール（予定）	P.28
入学選考について（2027年度東京都立大学プレミアム・カレッジ本科生募集概要）	P.29
修了要件、履修の上限、修了後について	P.30
FAQ（よくあるご質問・回答）	P.31
【参考】東京都立大学について	P.32
【参考】東京都立大学における生涯学習の取組	P.33

東京都立大学プレミアム・カレッジの概要

入学対象等（本科）	募集人数	５５名程度
	入学選考	小論文及び面接
	受講料（授業料）	年額２０万円（入学料なし）
学生生活	在学期間	本　科　：1年間（4月～翌年3月） 専攻科※1：1年間（4月～翌年3月） 研究生コース※2：最長２年間（年度更新制） ※1 専攻科は、本科修了後に引き続きカレッジで学び続けられる制度です。 ※2 研究生コースは、専攻科修了生を対象とした、自主的・主体的な研究活動をサポートする制度です。
	カリキュラム	「首都・東京をフィールドに学ぶ」をテーマに、 カレッジ専任の教授等による独自のカリキュラムを提供



Features

東京都立大学 プレミアム・カレッジの特徴

緑豊かで開放的な南大沢キャンパスでの学び

東京都立大学プレミアム・カレッジは、東京都立大学の南大沢キャンパス（八王子市）に開講します。南大沢キャンパスの美しさ、開放感は、数多くある大学キャンパスの中でも特に優れていると評価されています。在学生の評判も非常に良く、「居るだけで癒される」といった声や、「遅くまで自習した後に見る、キャンパスの夜景も印象的」など、キャンパスの美しさは、このカレッジの大きな魅力と言えます。

「首都・東京をフィールドに学ぶ」をテーマとした、幅広い独自のカリキュラム

総合大学である東京都立大学の有する豊かで多様な教育研究資源を生かした、魅力あふれる授業を提供します。講義は、教育研究実績が極めて豊富なカレッジ専任の教授等による、東京都立大学プレミアム・カレッジ独自のカリキュラムです。具体的には、歴史や心理学、社会学などの文系科目に加え、世界自然遺産に登録されている小笠原の自然保全等の自然科学や環境学、トンネルや橋梁等の土木工学を始めとする理系・文理融合科目といった幅広い科目を、自ら選択して学ぶことができます。

全員がゼミナールに参加し、新たな仲間と学びや交流を深める

すべてのカレッジ生がゼミナールに参加します。カレッジでは、いずれかのゼミナールに所属し、経験豊富な担当教員の指導の下、新しい仲間との討議等により、学びや交流を深めていきます。ゼミナールでは、グループ別の学習や複数のクラスとの合同の授業等、多様な学び方を組み合わせて、お互いの学びや交流が深まるよう、工夫を凝らします。年度末には、カレッジ生それぞれが、修了論文を作成して、仲間やご家族、学部生などの前でその成果を発表していただきます。

東京の持つあらゆる資源を活用した多彩なフィールドワーク

東京都立大学プレミアム・カレッジは、教室での学びだけでなく、実際の「現場」で「五感で理解」することも大切にします。東京都立大学は、東京都が設置した唯一の公立大学法人であり、東京都等と緊密な連携関係を築いています。その連携等に基づき、東京都が有する多様な施策の最前線を学びの場として活用します。水害を軽減するため、環状七号線の下に存在する巨大な地下調節池の視察や、東京の島の自然を学ぶ合宿形式の体験学習など、教室での理解をさらに深めるフィールドワークは、他ではなかなか経験できません。

学びを通じた都立大生等との異世代交流

東京都立大学プレミアム・カレッジは、その独自のカリキュラムが大きな魅力ですが、加えて、東京都立大学の学部生対象に実施している科目について、一部受講できることも特徴として挙げられます。これにより、カレッジ生が学部生などと肩を並べて学び、交流する機会を持つことができます。また、カレッジのアシスタントとして、学部生や大学院生を積極的に活用し、きめ細かい支援を実現するとともに、異世代交流も促進していきます。

快適で充実した学習環境

カレッジ生専用のラウンジ（P.21参照）や、カレッジ生が落ち着いて学び・交流することが可能な拠点を確保するほか、学食や図書館、情報処理教室（パソコンルーム）の利用など学部生と同様に充実したキャンパスライフを送っていただくための環境を整備しています。個人メールアドレスの付与や専用ロッカーの貸与に加え、東京都立大学オープンユニバーシティ（P.33参照）の会員資格を得ることができるなど、カレッジ生の多様な学習ニーズに応える、充実した学習環境を提供します。

修了生には、法に基づく「履修証明（certificate）」を授与

東京都立大学プレミアム・カレッジのカリキュラムは、学校教育法に基づく体系的な学びの修了を証明する「履修証明プログラム」に位置付けられます。修了生には、同法に基づく「履修証明（certificate）」を授与します。

※東京都立大学プレミアム・カレッジは学校教育法第1条に基づく正規の大学の課程ではないため、修了した場合も、学位を取得することはできません。

更なる学びの意欲に応える２年目以降のプログラム

東京都立大学プレミアム・カレッジは、本科（１年目）を修了後、引き続きカレッジで学び続けたいというニーズに応えるため、専攻科（２年目）及び研究生コース（３～４年目）を設置しています。専攻科は、本科と同様に「履修証明プログラム」に位置づけられており、本カレッジが開講する多様な科目から本科で履修できなかった科目を履修することができます※。また、本科と同様、すべての専攻科生がゼミナールに所属し、本科より一歩進んだ修了論文を作成します。研究生コースでは、専攻科修了後、自身の興味・関心のある分野を、最長2年間、自主的・主体的に研究することができます。研究期間中は、研究担当教員の定期的な超少人数指導（月数回程度）により、専門的な研究活動をサポートします。

※一定の制限を設けた上で、本科で既に履修した科目を履修することもできます。

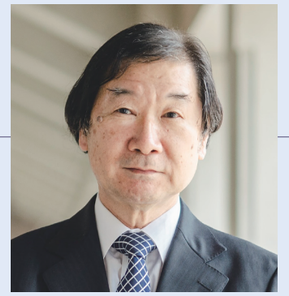
Message

ご挨拶



東京都立大学 プレミアム・カレッジ カレッジ長 **松本 淳**

「東京都立大学プレミアム・カレッジ」は、様々な人生経験を積んだ５０歳以上の方々が、より豊かで充実した人生を送るための一つの契機・場となることを願い、２０１９年４月東京都立大学南大沢キャンパスに開講いたしました。現在、本科・専攻科・研究生コースあわせて１００名を超える方々が、この新たな「学び」と「交流」の場で、充実した日々を過ごされています。
本カレッジでは、「首都・東京をフィールドに学ぶ」をテーマとし、文理融合科目等の講義や、現地で体感しながら学ぶ多彩なフィールドワーク、さらには必修科目の少人数ゼミナールに参加しての論文作成など、豊富な経験と高い実績を有する専任教授陣が中心となって、魅力あふれる体系的カリキュラムを提供しています。また施設面でも、専用のラウンジや個人ロッカーを整備するなど、快適で充実したカレッジ生活が送れるようサポートしています。
東京都立大学プレミアム・カレッジは、生涯現役社会の構築に向けた取組を一層推進し、皆様の学びの意欲に応えてまいります。是非、プレミアム・カレッジで、多様な経歴を持ち意欲あふれる仲間の方々と、「主体的な学修」を経験してみましょう。



東京都立大学 学長 **大橋 隆哉**

東京都立大学は、国内大学屈指の研究力を基盤とし、その研究を質の高い大学教育へ循環させることが生み出す豊かな教育研究資源を有することが大きな特徴です。シニア世代の方々からの「大学レベルの学問を体系的・主体的に学びたい」との熱心なご要望をもとに、２０１９年４月に東京都立大学プレミアム・カレッジを開講いたしました。本カレッジでは、本学が擁する教育研究資源を十分に活用したカリキュラムをご提供するとともに、東京都が設置する唯一の公立総合大学である強みを最大限発揮し、都が有する行政の現場や東京近郊の多様な施設を、フィールドワークとして実地に学べる講座も盛り込んでおります。充実した生涯学習へ向けて多彩な講座と体系的な学びの場を、これだけの質・規模で提供しているのは、おそらく本学以外にはないと自負しています。新しい仲間に出会い、ゼミ・講義・フィールドワークに参加し学問へ広く取り組むことに加えて、自身の選んだテーマを探求することを通じて知的な力をさらに高めてください。学ぶことは魂を解き放ちます。本カレッジは意欲に溢れた皆さんのチャレンジを心より歓迎いたします。

Policy

東京都立大学プレミアム・カレッジの教育（３つのポリシー）～「求める学生像」等～

アドミッション・ポリシー（入学者の受入れに関する方針）

東京都立大学プレミアム・カレッジでは、次のような資質を有するカレッジ生を求めています。

求める学生像

1. 知的好奇心にあふれ、未知のものにチャレンジする人
2. 人とのかかわりを大切にし、これまでの人生経験や本学での学びの成果を、社会に還元するなど、社会に貢献する人
3. 独創的な発想に富み個性豊かで、仲間の発想や個性を尊重できる人
4. 学びの意欲に富み、努力を惜しまない人

入学前までに備えているべき能力

1. 高等学校卒業程度の基礎的な学力と知識
2. 基礎的な言語能力に基づく思考力と表現力
3. 東京の都市課題や、一般教養分野に関する広い関心と強い探求心
4. ともに学ぶ仲間や学部生等を尊重し、学び合い、高め合うことのできる社会性・コミュニケーション能力

ディプロマ・ポリシー（修了証書授与の方針）

育成する人物像

東京都立大学プレミアム・カレッジは、多様な人生経験などを有するカレッジ生に対し、人類共有の知的財産である学術研究に裏打ちされた専門分野の基本的な知識・理解及び幅広い教養を身に付けさせるとともに、普遍的に有用性を持つ能力を獲得させ、首都東京や地域などの諸課題の解決に貢献し、修了後、社会で更なる活躍が可能となる人材の育成を図る。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

教育課程編成の基本的考え方

東京都立大学プレミアム・カレッジは、「必修科目」、「選択科目」及び「アディショナル科目」により、学習分野の基本的な知識・理解、幅広い分野の教養及び普遍的に有用性を持つ能力を獲得・強化できるよう、各開講科目の履修により獲得できる能力を明示する。これらにより、東京都立大学プレミアム・カレッジに相応しい、学習成果の幅と深さを確保できる体系的な教育課程を編成する。



Curriculum

カリキュラムの概要

カリキュラムのテーマ

「首都・東京をフィールドに学ぶ　～江戸・東京そしてTOKYOへ
“伝統”と“革新”が共存する、首都・東京の豊富な資源を最大限活用したカリキュラム～」

主な特徴

独自の幅広いカリキュラム

東京都立大学プレミアム・カレッジ専任の教授陣や東京都立大学の教員などにより、独自のカリキュラムを提供します。

豊富な授業

「プログラム科目群」では、江戸・東京の「歴史」や首都・東京の「まち」、「都市課題」について、様々な専門分野の視点から深く・広く学ぶことができます。「教養科目群」では、社会学や言語学、心理学など人間・健康をテーマとする科目及び日本の国の成り立ちや日本美術、科学的な視点からの遺跡の解説など、幅広いテーマの科目を自ら選択して学ぶことができます。さらに、プレミアム・カレッジでの学びにおいて必須となる大学内の情報環境やeラーニングシステム等に関する基礎的な知識、研究活動を始めるにあたって必要となる一般的な知識や論文作成のためのライティング等のスキルもしっかり学ぶことができます。

ゼミナール

ゼミナールは、担当教員と5～10名程度の少人数の学生がグループで研究活動を行う授業を指します。プレミアム・カレッジでは、カレッジ生自らの調査研究や発表、論議が授業内容の中心となり、ゼミナールにおける主体的な学習を全体のカリキュラムの中心と位置付けています。カレッジ生が個人またはグループで研究テーマを設定し、調査と分析を進めて修了論文を作成します。年度末の成果発表会では修了論文を取りまとめた内容をプレゼンテーションします。

多彩なフィールドワーク

教室内での講義に加え、現場で「五感で理解」することを重視します。東京都などとの緊密な連携関係に基づき、都政の広大な施策の現場を活用したフィールドワークを、授業に積極的に盛り込んでいきます。

カリキュラムの基本情報

- 1年を「前期（4月～9月）」、「後期（10月～3月）」に分け、授業を実施します。
- 必修科目は全員が履修しますが、それ以外の科目（選択科目、アディショナル科目）は、自身で希望の科目を選択し、事前に登録をした上で履修します。
- アディショナル科目には、夏季休業中などに実施する「夏季・春季等集中講座」もあります。
- 修了するには、一定の要件（修了要件）があります。（詳細はP.３０参照）

カリキュラムの構成

カリキュラムは、大きく「必修科目」、「選択科目」、「アディショナル科目」の３つに分類されます。
「必修科目」はカレッジ生全員が履修する科目で、前期・後期のゼミナールなどにより構成されています。
「選択科目」は「プログラム科目群」と「教養科目群」という2つの分野で構成されます。それぞれ受講する科目を選んで履修するもので、一定数以上の選択科目を履修することが修了要件となります。
「アディショナル科目」は、履修が修了要件にはならないものの、パソコン技術、その他夏季・春季集中講座等バラエティに富んだ科目を、カレッジ生の選択により受講することができるものです。
そのほか、東京都立大学の全学部生に開放されている全学共通科目を一部受講することができる「科目等履修」があります。

カリキュラム構成概要

区　分	科　目　概　要	履修について
必修科目 （詳細 P.８参照）	カレッジ生はゼミナールのいずれかのクラスに所属し、カレッジ生同士や担当教員との意見交換や、修了論文の作成等を実施 本科のみ、研究倫理やアカデミック・ライティング、情報リテラシーの基礎を学ぶ	●全科目履修することが修了要件 ●年度末の成果発表会で研究成果を発表
選択科目 （詳細P.９～参照） プログラム科目群	「東京・都市」をキーワードとする科目群 歴史や都市基盤・自然など、様々な角度から「東京」への理解を深める科目群（３つのテーマに分かれる）	●４科目以上履修することが修了要件 ●カレッジ生が履修する科目を選択
選択科目 （詳細P.９～参照） 教養科目群	カレッジ生の幅広い関心に応えるべく、幅広い分野の教養科目を開設	●2科目以上履修することが修了要件 ●カレッジ生が履修する科目を選択
アディショナル科目 （詳細 P.15～参照）	基幹科目となる「必修科目」と「選択科目」の学びを補完し、より幅広い知識と教養を身に付けるための科目群 ○パソコン技術 ○きらぼし銀行金融講座 ○夏季・春季等集中講座	●修了要件外 ●カレッジ生が履修する科目を選択
科目等履修 （詳細 P.16～参照）	プレミアム・カレッジのカリキュラム外 東京都立大学の学部等の正規課程の授業のうち、一部の科目について、一定の制限の下受講することが可能	●修了要件外 ●カレッジ生が履修する科目を選択



Curriculum

※講座名や内容・担当教員などは2026年4月現在のものです。
※2027年度については変更となる場合もあります。
※「講座名」横の○回は授業予定回数です。

カリキュラムの内容（授業科目の概要）

必修科目

情報リテラシー基礎 4回

東京都立大学学術情報基盤センター
伏木田稚子教授、安藤大地教授、根元裕樹准教授

本学においてコンピュータやネットワークシステムを利用する上で必須となる情報倫理、学内の情報環境、eラーニングシステム「kibaco」等に関する基礎的な知識を習得する。

研究を始める前に ～研究倫理とリテラシー編～ 2回

東京都立大学プレミアム・カレッジ 児玉謙太郎准教授

本授業では、研究活動を始めるにあたり必要となる一般的な知識として「研究とは何か？」「守るべきルールは？」「必要なスキルは？」について、研究倫理、情報リテラシー、研究計画、学術的コミュニケーション、調査法といったキーワードに基づき学んでいく。

研究を始める前に ～論文・スライド作成編～ 2回

東京都立大学プレミアム・カレッジ 児玉謙太郎准教授

本授業では、プレミアム・カレッジにおける研究活動の成果を発表する上で必要なWord（文書作成）、PowerPoint（プレゼンテーション）の基本的な知識や操作について学ぶ。具体的には、論文やレポートの作成における論理的思考、アカデミック・ライティングの基礎（パラグラフなど）を学び、Wordを使った簡単な文書作成や、PowerPointを使ったプレゼンの基本的な機能について演習形式で学ぶ。

前期ゼミナール及び後期ゼミナール 24回

ゼミナール担当教員

東京都立大学プレミアム・カレッジでは、ゼミナールにおける主体的な学習をカリキュラム全体の中心と位置付けている。授業は5名程度の少人数で、カレッジ生が個人又はグループで研究テーマを設定し、調査・分析を進めて、プレゼンテーションやレポートなどの形式で発表、討議を進めていく。カレッジ生各自が研究テーマを定め、修了論文を作成し、発表することを最終的な目標とする。

修了論文テーマ（例）

- フレイル予防に有効なフレイルチェック会の参加者を増やすには？ー国立市を事例としたマーケティング方法論からの一考察
- 北斎「武州玉川」の謎を読む
- 戦争遺構の保存と伝承について～旧中島飛行機変電室解体についての一考察：旧日立航空機変電所と対比して～
- 「川崎平右衛門定孝物語」～武蔵野新田いまむかし～
- 中高年者の退職後生活における地域コミュニティとの関わりーサードプレイスとしての地域コミュニティー
- サードエイジにおける学びと社会参加ーインタビュー調査から見える活躍の姿ー

このほかにも、自然環境や観光、芸術など、多様な分野をテーマとした修了論文が作成されています。

選択科目（プログラム科目群）

テーマ ❶ 江戸・東京の「歴史」から学ぶ

江戸・東京まちづくり物語 12回

東秀紀（東京都立大学 非常勤講師）

この授業は、徳川家康が江戸に来て以来430年にわたる「まちづくり」の歴史を、わかりやすく皆さんにお話する。家康はじめ、大岡越前、渋沢栄一、後藤新平らの人々を中心に置き、絵画や写真、時には動画を含んだパワーポイントで、江戸・東京の歴史、現在、未来を、皆さんとご一緒に探っていきたい。

東京地理入門 12回

菊地俊夫（東京都立大学 非常勤講師）

江戸および東京が何故、世界都市になったのか、あるいは何故、世界都市であり続けているのかを、東京を取り巻く自然環境や歴史・文化環境、社会・経済環境などから総合的に解き明かし、江戸や東京の地理的な性格を理解する。また、他の世界都市との比較を通じて東京の優位性・特徴も理解する。

文芸の中の江戸・東京 12回

東秀紀（東京都立大学 非常勤講師）

芸術や文化では、舞台としての「都市」が大きな意味をもっている。「まちづくり」を中心とした前期に続き、後期では江戸・東京を舞台として、落語、観光、ファッション、浮世絵から小説、ミステリ、アニメ、映画、バレエに至る様々な文芸作品を、パワーポイントによる写真や絵画、更には動画を含めてみていきたい。同時に近代都市として、東京のモデルとなったロンドン、パリなど西欧の都市についても触れる予定。

考古学で考える江戸・東京 12回

後藤宏樹（東京都立大学 非常勤講師）

近世・近代史の舞台となった江戸・東京について、遺跡の発掘によって明らかになった知識を得る。

テーマで探る江戸時代 12回

堀智博（東京都立大学 非常勤講師）

先人の生き方を知ることで、現代社会に生きる上で直面する諸問題の原因とその改善策を見出す力を身につける。

選択科目（プログラム科目群）
テーマ❷ 首都・東京を教材に「まち」を学ぶ

都市を育み、活かす技術 12回
東京都立大学都市環境学部都市基盤環境学科
今村能之教授、横山勝英教授、新谷哲也准教授、酒井宏治准教授

私たちが安心して快適に暮らし、生活の質を高めていくためには、生活と自然環境の調和を図り、安全で機能的な社会システムを有する都市空間を持続していく必要がある。その実現のためには、種々の都市基盤施設の整備とそれを支える技術が重要である。そこで本講義では、「生活環境を育み、活かす」といった役割を担う都市基盤技術をテーマに、都市の水及び資源の循環に焦点をあて、水資源、水環境、上下水道・リサイクル、沿岸・海洋環境などについて、具体的な例も挙げて講義する。都市問題の解決に関わる話題を幅広く提供するため、数名の講師によるオムニバス方式の講義を行う。

都市を造り、支えるインフラ 12回
東京都立大学都市環境学部都市基盤環境学科
村越潤教授、上野敦准教授、河田皓介助教

都市および周辺地域での「安全」、「安心」が社会のキーワードになってきている。普段意識することが少ない生活環境を支えるインフラに関し、都市のインフラを代表して、コンクリート構造物、橋梁と、それらを支える地盤と地下のトンネルについて、具体的な例も挙げて講義する。都市問題の解決に関わる話題を幅広く提供するため、数名の講師によるオムニバス方式の講義を行う。

多摩・島しょ地域の自然 12回
可知直毅（東京都立大学 非常勤講師）

多摩・島しょ地域の自然に対する理解を深め、その自然を活かした地域振興について考察する。

多摩ニュータウン物語 12回
東京都立大学都市環境学部建築学科 松本真澄助教、吉川徹教授
東京都立大学 上野淳名誉教授
成瀬恵宏（東京都立大学 非常勤講師）

最初の入居が実現してから半世紀が経過している多摩ニュータウンは我が国最大のニュータウンである。居住者の高齢化、住宅ストックの老朽化の影が忍び寄るが、その‘いえと街の再生’は我が国の都市・住宅の将来にとって普遍の課題といえる。多摩ニュータウンの来し方、行く末についてフィールドサーベイを交えながら議論する。

地図で読む東京の景観の成り立ち 12回
東京都立大学プレミアム・カレッジ 若林芳樹特任教授

地図には過去から現在までの景観が記録されている。この授業では、地図を通して東京の景観の成り立ちを理解することを目的とする。ここでいう「成り立ち」には2つの意味があり、1つは江戸から現在までの景観の変遷で、もう1つは景観を構成する要素の相互関係である。授業ではこれら2つの側面から景観の成り立ちを考える。

選択科目（プログラム科目群）
テーマ❸ 東京の「都市課題」から学ぶ

都市の自然と里山 12回
菊地俊夫、小林健人（東京都立大学 非常勤講師）

近年、都市近郊に残る里山緑地をいかに管理保全し、適正利用していくかが大きな課題となっている。その課題の解決には、里山の自然を含めた諸環境を総合的に理解し、地域財産としてどう管理・活用していくかを学ぶことが必要である。ここでは、座学とフィールドワークを組み合わせて、都市の自然と里山の理解を実践的・総合的に深めることを主幹的なテーマとする。

生涯発達と健康・QOL 12回
東京都立大学プレミアム・カレッジ 児玉謙太郎准教授

生涯発達とは「誕生してから人生を終えるまでの生涯を通し、意識、行動を変化させ続け、その人らしく成長・発達を続ける」という考え方である。本授業では、心理・認知・身体の観点から多角的に健康や QOL（Quality of Life：生活の質・人生の質）について解説し、ともに考えていく。健康やQOLを維持・向上させ、人生を豊かにする方法は様々である。身体の健康だけではなく、社会文化的な活動の中で、他者とのコミュニケーションを通して得られる精神的・社会的な健康も重要である。そこで、本授業では、各分野の専門家・実践家を招いて、文化、アート、スポーツ、テクノロジーと健康・QOLの関係を学び、それらについて多角的に考えていく。

防災と危機管理 12回
田邉揮司良（東京都立大学 非常勤講師）

30年以内に70％の確率で発生が予期される首都直下地震災害、近年激甚化する豪雨災害、島しょ部における火山噴火や津波災害などの自然災害への東京都の対応をはじめ、テロ、サイバー、感染症、弾道ミサイルなど、都民生活や都市機能に多大な影響を及ぼす事態に対するわが国の危機管理の現状と課題、並びに個人でできる対策などについて講義する。

東京から読み解く都市の社会課題 12回
東京都立大学プレミアム・カレッジ 和田清美特任教授
東京都立大学人文社会学部人間社会学科 金侖貞教授
黒岩亮子、脇田彩（東京都立大学 非常勤講師）

本授業では、東京の社会課題として、階層格差、ジェンダー、少子化、子どもの貧困、高齢者の介護と住宅、地域福祉、多文化共生、教育問題、地域構造、コミュニティをとりあげ、都市の社会課題について理解することを目的とする。

気象災害を知り、自分と家族の安全を守る 12回
東京都立大学プレミアム・カレッジ 高橋日出男特任教授

日本は世界の中でも気象災害の多い国であり、毎年のように大きな災害に見舞われる。本授業では気象災害を発生させる気象現象の特徴やしくみについて、簡単な実習を含めて解説するとともに、都市型水害や暴風雨などの体験学習を通し、気象災害への備えを考えたい。

都政課題（フィールドワーク） 8回
東京都立大学 松本淳プレミアム・カレッジ長

本講座では、多様な行政のフィールドを抱える東京都の施策の最前線について、現場のフィールドワークを含めて実践的に学ぶ講座である。東京都の担当者（管理職等）などからの施策の説明と合わせて、ハード施設や試験研究施設を始めとした現場の実態を、直接「見て、感じる」プログラムである。

選択科目（教養科目群）
テーマ❶ 都市・社会・環境

ボランティアの理論と実践 12回
林大介（東京都立大学 非常勤講師）

ボランティア活動ならびにNPO組織と活動についての基礎知識について理解を深めるとともに、特徴的な企業による社会貢献、CSRも最新事例を用いて適宜取り上げる。一方的な講義だけではなく、随時、学生同士のディスカッションやワークショップ、ゲストスピーカーとの対談などといった参加型で実施することを通して、カレッジ生時代及び修了後のフィールドにおいても、ボランティア・NPOに関わっていくことを目指す。

都市コミュニティ論 12回
東京都立大学プレミアム・カレッジ 和田清美特任教授

本授業は、コミュニティの理論、役割・機能、組織と形態および政策について学び、現代日本の都市コミュニティの意義と組織化について考察する。

文学作品や歌謡曲から始める気候環境の理解 12回

東京都立大学プレミアム・カレッジ
高橋日出男特任教授

本授業では、身近な、あるいは社会的にも影響が大きい天気や気候・大気環境を取り上げ、その現象や変化・変動の理解を深める。その際に、親しみやすい文学作品や歌謡曲歌詞などを導入に用い、そこから内容を展開することを試みる。

デジタル時代の地図と地名 12回

東京都立大学プレミアム・カレッジ 若林芳樹特任教授

デジタル化が進むにつれて地図や地名の作成・表現・利用は大きく変貌した。この授業では、地図と地名の最新動向を紹介した後で、実際にウェブ地図と簡易GIS（地理情報システム）を使いながら、地理空間情報の活用の仕方を学ぶ。

選択科目（教養科目群）
テーマ❷ 文化・言語・芸術・歴史

近代日本美術史―岡倉天心、横山大観らと「日本画」の成立― 12回

佐藤志乃（東京都立大学 非常勤講師）

明治期、美術行政を動かし伝統美術復興に尽力した思想家・岡倉天心と、その傘下で実験的試みを展開した画家・横山大観。両者は画壇を牽引し、「日本画」の創出に尽力した。本講座では、彼らの事跡を中心に「日本画」成立の過程を追う。また、同時代の時粧風物や、思想、宗教、文学の動きなどと関連させて、近代日本史の流れのなかに「日本画」を位置づける。

奈良の考古学で知る日本の国の成立過程 12回

橋本裕行（東京都立大学 非常勤講師）

奈良に古代日本国家が登場する過程を奈良に残る遺跡情報から学ぶ。奈良の地に最初の国が生まれた経緯を知る。

江戸から近代への日本美術の流れ ～伝統美術の流派 12回

佐藤志乃（東京都立大学 非常勤講師）

和歌、古典文学、漢籍、俳句といった文芸や、仏教、道教などと密接に結びつき、それらから多くの題材を得てきた伝統美術は、西洋化の進む近代においてもなおその画題を失うことはなかった。本講座では、江戸から明治にかけて日本人の美意識、想像力、信仰心、教養、遊び心がどう受け継がれたのかを、伝統諸派の絵画から読み解く。

外国語としての日本語 12回

東京都立大学プレミアム・カレッジ 西郡仁朗特任教授

日本語を学んでいる外国人は世界で400万人を超え、国内でおよそ30万人近くになる。この授業では、他の言語にはあまり見られない外国語としての日本語、特に東京共通語の具体的特徴について理解し、外国語あるいは第二言語として習得するためのポイントやヒントについて考察する。

西洋美術史（古代～近世） 12回

東京都立大学プレミアム・カレッジ 小石絵美准教授

都内には西洋美術を扱う展覧会が数多く開催されている。美術を楽しむ第一歩は、これらの美術作品に興味を持つことであろう。しかしながら、西洋の美術作品の意図を読み取るためには、ある程度の基礎知識が必要であることも事実である。そこで、本授業では各時代の美術を代表する作品を例として取り上げ、作品を理解するための最も基本的な「視方」を身に着ける。目の前にある作品の色や形をただ見て楽しむ鑑賞から、作品の意図を読み取り、「理解する視方」へとステップ・アップする授業を目指す。

日本語教育の制度の変遷と問題点 12回

東京都立大学プレミアム・カレッジ 西郡仁朗特任教授

日本語教育をめぐる施策は、昨今「日本語教育推進法」（2019）の制定、「日本語教育参照枠」策定(2021)、「技能実習生制度」から「育成就労研修」への見直し(2024,実施は2027から)、告示校から「認定日本語教育機関」、「登録日本語教員・登録実践研修機関・登録日本語教員養成機関」の法制化・認定（2024）をはじめ、外国人の生活・就労・留学等と日本語教育の充実のための制度が急速に策定されつつあり、目まぐるしく変動している。この授業では、日本語教育の諸制度の成立と歴史、外国語教授法の流れ、これからの課題を扱い、受講者との議論を通じて理解を深めていく。

選択科目（教養科目群）
テーマ❸ 生命・人間・健康

生活機能障害概論 12回

東京都立大学健康福祉学部理学療法学科 浅川康吉教授
看護学科 福井里美教授
作業療法学科 渡邉賢教授、蘭牟田洋美准教授、石橋裕教授

日常生活の様相を多面的にとらえる枠組みとして国際生活機能分類を学び、高齢者や障害者に生じる生活機能障害を理解するとともに、住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けるための支援方法について講義する。

人生の後半への向き合い方：自分・家族・社会に対して 12回

永井撤（東京都立大学 非常勤講師）

私は臨床心理学の立場から、6年間プレミアム・カレッジで自分史を書くことで人生の後半、晩年への取り組みを取り上げてきた。今年度は、その総まとめとして旧ゼミの方の研究も踏まえ、実践的な話ができればと思っている。

対人関係とコミュニケーションの心理学 12回

東京都立大学プレミアム・カレッジ 渡部みさ特任教授

私たちの生活では、人と人との関わりあいの中で、様々なコミュニケーションが生まれる。この授業では、臨床心理学の見地からこれらの対人関係とコミュニケーションについて理解を深めていく。

地域包括ケアシステム～住み慣れた地域で自分らしく生ききるために 12回

東京都立大学プレミアム・カレッジ
河原加代子特任教授

システム理論の考え方をもとに、地域包括ケアシステムとはどのようなシステムなのかを理解し、人間と環境との相互作用を、人間、家族、地域の各レベルで分析的にとらえる方法を学ぶ。住み慣れた地域で自分らしく生ききるためのヒントや手がかりについて受講生の皆さんと一緒に考える。

子どもから考える生きづらさの心理学 12回

東京都立大学プレミアム・カレッジ 下川昭夫特任教授

本授業では現代の子どもたちの生きづらさの理解を通じ、受講者自身の自己理解や周りの人間関係の捉え方などをあらためて考え、視点を新たにしたり、身近な人とのコミュニケーションのお役に立てればと考えている。

ライフスタイル健康科学 12回

稲山貴代（東京都立大学 非常勤講師）

本授業では、ライフステージやライフスタイルによって変化する健康状態や健康課題、健康づくりの実践を取り上げる。科学的根拠、ヘルスリテラシー（情報へのアクセス・理解・判断・活用）、根拠に基づく健康づくりについて講義する。具体的な実践活動に取り組むことができるよう演習を取り入れる。特に、身体活動（運動と生活活動）に焦点をあて、自身で健康をマネジメントできる力を養うことを目指す。

Curriculum

選択科目（教養科目群）

テーマ❹ 科学・技術・経済・産業

宇宙の謎に迫る 12回

東京都立大学 大橋隆哉学長

宇宙には惑星、星、銀河などの見える天体だけでなく、ブラックホールやダークマターといった特異な天体や物質が存在し、宇宙の進化や構造形成の鍵を握っている。多くの謎に満ちた宇宙をどう観測し、その実態をどのように解き明かそうとするかについて学ぶ。

直立二足歩行による人類の拡散史 12回

太田正廣（東京都立大学 非常勤講師）

本授業では、なぜ現生人類の祖先が遥か約700万年前に樹上から地上に降り直立二足歩行し始めたのか、なぜ古人類は誕生の地・アフリカを離れなければならなかったのか、なぜ世界中に拡散できたのかの原因等を皆さんと一緒に考えてみたい。狩猟採集時代の祖先は、非常に厳しい他の動物との生存競争を生き延び、気候の大変動と闘い、数十万年かけて世界中に拡散した理由を議論したい。祖先たちは、アラスカから南米最南端まで約2万kmを約千年間スケールで拡散したらしいことは非常な驚きではないだろうか！現生動物たちを含めた動物たちの骨格構造・筋肉構造・五感・呼吸・脳・前肢等がどのような構造・機能を有しているのかを概観し、人類誕生前から古動物たちは如何に五体・五感を進化させながら生き残り、何を得て何を失ったのか？

拡散手段進化による人類の拡散史 12回

太田正廣（東京都立大学 非常勤講師）

現生人類（ヒト、ホモ・サピエンス）の祖先は、約700万年前頃から直立二足歩行で地上を歩き始め、アフリカ大地から世界中にどのように移動・拡散を開始したのか。自身の足を使って移動しだした人間は、その後、馬や牛などの動物を使いこなし、帆船を操り、近代技術を獲得し鉄道や自動車・航空機・ロケットで地上・地下・海上・海中・空中・宇宙に拡散している。現代では、たった一日で世界中に拡散できる手段をヒトはどのようにして手に入れたのかを、俯瞰的に歴史的に技術的に眺めてみながら、その手段が如何に進化してきたか、将来に向けどのような変貌を遂げ進化して行くかを考えてみたい。手にした手段は、未知への憧れ、早さ・便利さを求めただけだったのか？直近のAI技術は未来の人類・地球に与える影響は？

企業経営と社会 12回

桑田耕太郎（東京都立大学 非常勤講師）

経営学は、現代社会の基礎的な構成要素としての企業を対象として、企業とそのベースとなっている社会の構造や行動のメカニズムを解明することを目的としている。この授業では、経営学の考え方や現実の企業の行動を理解するための基礎知識について講義する。

自然を見る目を養う（自然地理学の基礎） 12回

東京都立大学 松本淳プレミアム・カレッジ長

日本と東京の多様な自然に対する理解を深め、その中で我々がより良く生きていく道を探るために、自然地理学の基礎を幅広く学ぶ。

メディア表現概論 12回

東京都立大学プレミアム・カレッジ 串山久美子特任教授

レオナルド・ダ・ヴィンチが当時の最新のテクノロジーと結びついた作品制作や思考をしたように、現代に生きている私たちにしかできない表現や発想があるかもしれない。本講メディア表現概論では、主に20世紀以前のメディア表現から現在に至るメディアアート＆デザインに関する重要な表現や最新の作品、使用される先端技術事例を紹介し、メディア表現の基礎知識の習得と理解を深める。講義形式の座学と合わせ演習や体験型の授業により学習を深める。

メディア表現実践基礎 12回

東京都立大学プレミアム・カレッジ 串山久美子特任教授

本授業では、近年の先端メディア表現と技術に焦点を当て、講義形式の座学と合わせ技術ワークショップや体験型の授業により実践的な学習を深める。観客が能動的に参加できるインタラクティブアートやデザイン、バーチャルリアリティ、生成AIなどの先進分野の表現や技術について学ぶ。IT経験の少ない初心者を対象としたARやAIのワークショップで実践的な表現技術の習得をする。また、学部生との共同授業など様々な体験を通じデザイン思考法やアイディアの創出方法を学ぶ。50代以上の人が経験してきたからこそ見える先端技術と表現の融合の提案があると考える。

アディショナル科目

パソコン技術 12回

東京都立大学学術情報基盤センター 伏木田稚子教授、渡邉美紀助教

コンピュータやネットワークシステムに関する知識を習得すると共に、それらを活用して具体的な課題解決に取り組む。

東京の「離島」を学ぶ（現地フィールドワーク：宿泊付） 春季集中

可知直毅（東京都立大学 非常勤講師）

東京都は、大都市を抱えるだけでなく、日本の海洋の40%近くを有する海洋都市でもある。八丈島は、都心から約300km南の伊豆諸島の最南部に位置する火山島である、活火山の三原山など豊かな自然環境を有するとともに、長い歴史と特徴ある文化をもつ。また、第2次世界大戦における本土防衛強化にかかわる多くの戦績が残っている。八丈島をフィールドとして、自然、社会、文化、歴史を実見し、その特徴を理解する。

東京農林業の今とこれから 夏季集中

公益財団法人東京都農林水産振興財団

「東京農林業の今とこれから」をテーマに、東京農林業の特徴や研究開発の最前線を学ぶ。具体的には、バラエティ豊かな東京農業の現状、東京オリジナル品種、先端的生産システム、花粉の少ない森づくりなどについて、東京都農林総合研究センターの研究施設のフィールドワークや東京農林業の未来を考えるワークショップも織り交ぜた授業を展開する。

きらぼし銀行金融講座 ～金融・経済の動向とこれからの資産形成～ 後期集中

東京きらぼしフィナンシャルグループ きらぼし銀行

金融・経済は、政治動向、技術革新、自然環境など、あらゆるものの影響を受けて常に変化している。本講座では、「金融や経済を取り巻く国内・海外の動向」、「デジタル化が進む社会」について解説し、将来に向けた「資産運用」、「相続」など資産形成の方法について解説する。金融機関の第一線にいる役員・社員が現場の経験や具体的な事例を交えながら、分かりやすい講義を行う。

パソコン技術（プレゼンテーション基礎） 夏季集中

東京都立大学学術情報基盤センター 伏木田稚子教授

プレゼンテーションの意義・目的、内容と構成、準備に関する知識を理解した上で、ソフトウェアを活用してスライドを作成し、研究発表のためのプレゼンテーションを実践する。

実習で学ぶバイオメカニクス 夏季集中

東京都立大学システムデザイン学部機械システム工学科 藤江裕道教授
三好洋美教授、坂元尚哉教授、山崎雅史助教、山本暁久准教授

生体組織や生体現象を力学的観点で捉えるバイオメカニクスについて概要を解説し、関節、血管・血液、細胞を対象とする講義と実習を行う。

わが国の総合安全保障と危機管理 夏季集中

田邉揮司良（東京都立大学 非常勤講師）

世界の覇権（自国の存立）を巡って米中対立が激化する中、わが国が置かれた安全保障環境は厳しさを増し、それは軍事的対立に限らず、経済、最新技術を巡る熾烈な競争の狭間にある。一方、ロシアによるウクライナ侵攻、イスラエルとパレスチナの紛争など、政治的・歴史的遺恨は武力紛争に発展し、解決の糸口が見えないまま、世界は「外交・ルールによる平和」から「力による平和」への傾向を強めている。また、専らSNSを通じた情報工作は人々の不安や恐怖を煽るなど、各国の政治・社会・経済の安定や価値観へ悪影響を及ぼし、民主主義の根底が揺るがされるとともに、その対応を複雑化させている。わが国周辺国の核・弾道ミサイル開発や、宇宙、サイバー領域等における能力向上、並びにそれら三か国の連携強化は、わが国の防衛力を含め国力の相対的な低下となっており、その抜本的強化が急がれている。特に、東・南シナ海の安全保障と台湾海峡リスクのわが国に及ぼす影響は無視できない。本講義では、わが国の安全保障環境を、外交・軍事だけではなく経済、社会などの要因を含め総合的に概観するとともに、わが国周辺及びロシアにおけるウクライナ侵攻など最新情勢の現状分析、2026年末に改定が予定される国家安全保障戦略などの見直しの動向、課題などについて概説する。

グローバル社会に活かす 異文化間心理学とコミュニケーションスキル 夏季集中

東京都立大学国際センター 岡村郁子教授

グローバル化や多文化共生の進展に伴って異文化接触の機会が増え、文化の多様性を背景とした社会的な課題も多く見られるようになってきた。本授業では、異文化間心理学の視点から、講義、ディスカッション、ケーススタディなどを用いて、異文化接触場面における諸事例を理論的に検討する。また、受講者自身のこれまでの経験を積極的に共有し、その心理的プロセスを学問的視点で再評価することを通じて、異文化理解を深める。さらに、グローバル社会における多文化共生に必要な知識やスキルについて考察し、実践力を養うことも大きなテーマとする。

心理学入門 夏季集中

東京都立大学プレミアム・カレッジ 渡部みさ特任教授

本授業では、心理学の基礎を学ぶ。まず、心理学の成り立ちとその発展を知ることから始め、心理学の各分野である、知覚心理学、認知心理学、発達心理学、社会心理学、および臨床心理学における基礎的な内容を学ぶ。

健康と栄養の科学 夏季集中

東京都立大学大学教育センター 眞鍋康子教授

適切な栄養と運動は健康維持のために重要である。本授業では、栄養の基礎を学んだうえで、食のおいしさと栄養、食と運動との関係を概説し、健康維持の基礎を学ぶ。

自律神経のバランスを整える 夏季集中

東京都立大学プレミアム・カレッジ 河原加代子特任教授

「自律神経が乱れる」という言葉はよく聞くが、そもそも「自律神経が乱れる」とはどういう状態をいうのだろうか。また自律神経を整える最初の一歩は「呼吸」といわれるが、なぜだろうか。こうした疑問からはじめて、実際にご自身の自律神経バランスを計測、可視化することで、「自律神経を整える」方法や自身の生活に取り入れる工夫について学ぶ。

都市論から見たジャポニスム 夏季集中

宮崎克己（東京都立大学 非常勤講師）

ジャポニスムという西洋の文化・芸術における幅広い流行現象を、その源としての江戸と中心地としてのパリという二つの大都市それぞれの社会環境、文化地理から考える。

子どもの心理支援について考える 夏季集中

東京都立大学プレミアム・カレッジ 下川昭夫特任教授

本授業では前期の「生きにくさを考える授業」を通じて子どもの持つ様々な困難さを理解した上で、それらは子どものみならず、大人の自分自身や周りとの関係も同様に理解できることを学ぶ。

科目等履修（全学共通科目）（東京都立大学プレミアム・カレッジ） ※学部の授業回数（半期15回）に準じる

各科目担当教員

東京都立大学の科目等履修として開放されている、全学共通科目約100科目について、一定の制限の下、受講することが可能。
授業回数は学部の回数（半期15回）に準じる。

- カレッジ生1人当たり、前後期各1科目、合計2科目を上限に受講可能
- 1科目当たりの履修上限人数あり（重複の場合は抽選）
- 対象科目は、科目等履修により開放されている科目のうち、全学共通科目

Message

ゼミナール担当教員からのメッセージ

カレッジ生とともに、ゼミナールで学ぶ担当教員からのメッセージです。
東京都立大学が誇る強力な教授陣が皆さまの学びと交流をサポートいたします。
※2026年4月現在の担当教員です。2027年度については変更となる場合があります。

渡部 みさ

東京都立大学　プレミアム・カレッジ特任教授



【専門】臨床心理学、思春期・青年期心理臨床。臨床心理士・公認心理師。主に教育分野で、思春期青年期にある児童・生徒・学生のカウンセリングや保護者・教職員へ向けたコンサルテーション等の心理臨床実践を行い、それらに基づく研究をしてきた。心理面接構造や連携に関する研究や、描画や箱庭といったイメージに関する研究がある。日本学生相談学会理事、全国学生相談機関代表者協議会監事、全国学生相談研修会講師等を務めてきた。

人生50年だった戦国時代から人生100年の時代へ…。50歳は人生の終着点から折り返し点に変わりました。ただ、単純に時間が倍になる訳もなく、折り返し点からの時の流れは速く感じられます。人生の残り時間を意識して「何をすべきか」「何をしたいか」考えあぐねながら、雑事に追われる毎日になりがちです。焦りばかりでは何も手につかないですし、諦めてしまっては何も始まりません。そんな時、何かを変えるきっかけになるのが「学び」かもしれません。
「50歳からの学び舎」は、若かりし日々が呼び覚まされる場であり、50歳を過ぎた今だからこそ過ごせる特別な時間でもあります。そんな学び舎で皆さまとご一緒できますことを、楽しみにしております。

西郡 仁朗

東京都立大学　プレミアム・カレッジ特任教授



【専門】日本語教育学、教育工学。外国語としての日本語の特徴を研究し、日本語の言語政策についての研究と提言を行なってきた。2019年に制定された「日本語教育推進法」関係者会議に有識者として関わり、現在も文化庁や内閣官房の各種委員として活動している。また「看護と介護の日本語教育研究会」の代表幹事もつとめ、外国人材の受け入れについて研究や研修、組織化と提言を行なっている。

私は日本語教育学を専門としています。2023年度からプレミアム・カレッジの特任教授に就任しました。また、日本語教育学会員、「看護と介護の日本語教育研究会」代表幹事、「アジア人材還流学会」会長をつとめ、日本語教育の基礎研究、現場、施策、交流事業、教材開発にも関わってきました。これまでの学部・大学院での指導では、外国語としての日本語音声の習得や、日本語のオノマトペの習得、会話分析、敬語とポライトネス、言語景観、外国人介護福祉士の日本語習得などを学部生・院生とともに研究し、また省庁などにも協力して政策提言をしてきました。プレミアム・カレッジのゼミではみなさんにさらに幅広くテーマを見出していただき、ともに議論していきたいと考えています。

Message

下川 昭夫

東京都立大学　プレミアム・カレッジ特任教授



【専門】臨床心理学、コミュニティ臨床。精神科・脳外科などでの心理療法や東京都老人総合研究所での認知症高齢者の研究などを経て、地域コミュニティの中での心理臨床を研究している。ここ20年くらいは小中学校における多様な児童生徒の課題に取り組み、東京都のフリースクールに関する委員なども務めている。

学習は主に学齢期における取り組みと狭く考えられがちです。しかし人生に自らを適応させて行く過程で、自分自身との内なる対話を通じ、生涯にわたって取り組む必要があるものです。高齢になるとあたりまえにあったものを手放さなくてはならなくなったり、周りとの関係が変化したりします。エリクソンは高齢期の発達課題で、うまくいかずに絶望を感じたり、逆に経験が統合されることでの満足感が得られるとしています。この発達課題に取り組むには、今までにない学習が必要ですが、そこでの内なる対話には、外での対話が不可欠です。自分も同様なので受講者と共に、自ら自身と直面することになる発達課題へ取り組むお手伝いができるとよいと考えています。

松本 淳

東京都立大学　プレミアム・カレッジ長



【専門】気候学、気象学、自然地理学。日本やアジアを中心としたグローバル・スケールでの気候学の研究が専門。主に世界各地のモンスーン気候について、季節変化や極端降雨の発生機構、気候変動等についての研究を行ってきた。気候変動や気候環境が、農業などの人間活動や人間の健康に及ぼす影響についても研究をしている。最近は古い気象観測記録や古日記の天候記録から江戸時代の気候を復元する研究にも取り組んでいる。

この世の中の自然や環境・人間社会には、実はまだわからない事が沢山あります。私は地理学を専攻し、人間生活や文化にも大きな影響を与える気候について、地域を明らかにする視点から研究してきました。プレミアム・カレッジの教員になってからは、ゼミ生の身近な自然や歴史・文化等に関する実に多様な研究テーマに出会い、それに対してゼミの仲間たちと一緒に悩み考えることを通じて、今までわからなかったことをわかることに変える喜びを、共に味わうことを楽しむようになりました。皆さんのやる気に触発されながら、私自身の専門にはとらわれずに、どんなことでも一緒に取り組んでいきます。

若林 芳樹

東京都立大学　プレミアム・カレッジ特任教授



【専門】都市地理学、地図学、地理情報科学。東京をはじめとする都市を対象にした人文地理学研究が専門。とくに人間の空間的行動に関するミクロな研究と、地理情報システム（GIS）を用いたマクロな研究を行ってきた。また、人間の空間認知と地図の関わりについて、デジタル化の影響をふまえた変化の研究にも取り組んでいる。

私の専門分野は地理学で、自然と人間のかかわりのもとに形成された地域の様々な現象を扱っています。そのため、文系・理系の枠を超えた複眼的なものの見方が重要になります。私自身もこれまで文系と理系の学部に所属してきて、文理融合の難しさと魅力も実感してきました。とくに私が重視しているのは、研究手段としての地図の利活用です。私の授業では地図に刻み込まれた自然と人間の営みの痕跡から地域の隠れた側面を解き明かしたり、様々な情報を地図に表現する方法を伝えたいと思っています。受講者の方たちは多様な興味・関心と経歴をお持ちのはずですが、私自身のこれまでの経験を生かしながら、幅広いテーマについて一緒に考えてゆくつもりです。

高橋 日出男

東京都立大学　プレミアム・カレッジ特任教授



【専門】都市気候学、地域スケール気候学、気候変化。降水現象に関連する都市～大陸スケールのデータ解析や、都市気候・局地風系など地域の大気環境に関わる研究をしている。たとえば、高密度な気象観測データを用いた統計解析やリモートセンシング機器による観測などにより、短時間強雨の発生に与える都市の影響やヒートアイランド現象の発現プロセス、都市大気の詳細な立体構造の把握などに取り組んできた。近年では季節推移の長期変化にも関心を持っている。気候影響・利用研究会会長など。

これまでに降水現象に関連する都市～大陸スケールのデータ解析、都市気候・局地風系など地域の大気環境、強雨や季節の長期変化などについて研究してきました。研究に対するモチベーションは、一人一人違っていて多様です。私は、時間・空間的に高密度なデータを収集し、あるいは自分で観測し、データから現象の像を描き出すことにワクワクしながら研究に取り組んできました。社会で多様な経験を有するプレミアム・カレッジの皆さんは、さまざまに取り組みたいテーマを持っていて、新たな学びに対する大きな期待感をお持ちです。皆さんの興味・関心を生かしたテーマのもと、ゼミなどで議論を重ねながら、皆とワクワク感を共有して増幅させ、一緒に学びを深めていければと考えます。

和田 清美

東京都立大学　プレミアム・カレッジ特任教授



【専門】都市社会学、コミュニティ論、地域組織論。都市コミュニティの社会学理論と実証研究ならびにコミュニティ政策を研究テーマにしています。研究の主なフィールドは「東京」です。東京の各地域でのコミュニティ形成・まちづくり活動のフィールドワークを積み重ねてきており、「地域の現場」から発想する、「社会調査」にもとづいた、大都市東京の社会変動と政策課題の解明に取り組んでいます。

「都市」は時代の変化を先取りし、大変魅力的な面をもっています。その反面、さまざまな社会課題をかかえています。ゼミでは、「都市」ならびに「東京」の「社会」の魅力や面白さ、そしてさまざまな課題を一緒に考え、ディスカッションできればと考えています。また、「地域の現場」から発想する、「社会調査」にもとづいた都市の社会課題や政策課題についても、一緒に考えたいと思っています。「都市」ならびに「東京」、そして「社会調査」、「コミュニティ形成・まちづくり」に関心をもつ皆さまの受講を期待しています。

串山 久美子

東京都立大学　プレミアム・カレッジ特任教授



【専門】メディアアート、バーチャルリアリティ、情報学。デジタル技術を活用したアートやVR・ARコンテンツの制作を通して、テクノロジーと人、社会の新しい関係を探究している。福祉・工学・デザインなどの分野を横断し、人々の体験や社会の課題から、新しい表現やデザインを生み出す。ローカル5Gによる車いすユーザーの活動支援、ARを活用した地域連携、世代間学習によるAI研究など、社会とつながる実践的な教育・研究を進めている。

私は、メディアアート、VR・ARやAI、インターフェース、福祉などを横断し、デザインと工学を融合した研究を行っています。年を重ねてきたからこそ見えてくる社会の課題や人々の暮らしに目を向け、これまで培ってきた経験や知恵と、新しい発想やテクノロジーを組み合わせ、私たちだからこそできる「温故知新」の提案を生み出し、より豊かで暮らしやすい社会につなげることを目指しています。授業では、アートとテクノロジーが生み出してきたメディア表現の歴史や、最新の作品やVRやAI技術にも実際に触れてみます。皆さんの経験や興味、疑問を出発点に、一緒に考え、楽しくチャレンジしていきましょう。新しい出会いと発見を楽しみにしています。

Message

河原 加代子

東京都立大学　プレミアム・カレッジ特任教授



【専門】地域・在宅看護学。脳卒中リハビリテーションの研究成果をもとに、在宅療養者と家族、地域の高齢者の方々の協力を得て誤嚥性肺炎予防のプログラムを開発、その効果を可視化する研究を行ってきた。現在は、地域包括ケアシステムにおいて、特に予防に重点をおいたセルフケア、地域共生社会にむけた新たなシステム開発の研究にも取り組んでいる。

ゼミでは、人間の「健康」を連続性のある現象としてとらえます。健康な人も病気治療中の人も、リハビリ中の人も、人生の最期を生ききろうとする人もすべてが含まれます。そして、その人の「暮らし」を成り立たせている身近な環境に着目します。立つ、歩く等の生活の基本動作と人のこころの動きを観察する方法として、呼吸、自律神経系、筋・骨格系を中心とした人間システムの理解から、家族、地域（集団）システムの理解へと視点を変えることで、ゼミ生の関心事を研究テーマとして絞り込むディスカッションを行っております。様々なバックグラウンドをもつカレッジ生同士の対話は魅力に溢れており、視野が広がることでこれまで見えていなかったことに気づかされます。皆さまとの新たな出会いを楽しみにしております。

児玉 謙太郎

東京都立大学　プレミアム・カレッジ准教授



【専門】認知科学・身体運動科学。心理学や認知科学の観点から、ヒトの身体運動や知覚、コミュニケーション、健康に関する基礎研究に従事。また、理学療法士・作業療法士・臨床心理士らとの共同研究も実施。人工知能学会の身体知研究会では幹事を務め、同学会の編集委員も務めている。

私は、こころ（心理）、からだ（運動）、あたま（認知）の関係性に興味があり、人間を対象とした様々な実験的研究を行っています。例えば、人間がどのように環境を知覚し行動しているかを調べ、リハビリテーションの実践や、人間をサポートする人工システムへの応用を目指しています。現代では、ロボットや人工知能が私たちの生活や社会に浸透し始め、改めて「人間らしさ」や「人との関わり」について問い直されているように思います。
私のゼミでは、幅広くテーマを募集し、様々なバックグラウンドをもつ仲間とのディスカッションを通し、人間ならではの能力や特性を理解できるような研究を進めていきます。多様で変動的な時代に柔軟に適応していけるスキルを皆さんと一緒に磨いていけたらと思います。

小石 絵美

東京都立大学　プレミアム・カレッジ准教授



【専門】西洋美術史・地中海考古学（先史エーゲ・古代ギリシア）。青銅器時代のギリシアで栄えたエーゲ文明の美術史・考古学を専門とする。海外の考古学研究所や遺跡・博物館の現地調査を行いながら研究を進めている。共同研究調査パルテノン・プロジェクト・ジャパンにも参加。専門領域は古代ギリシアだが、西洋美術史全体を広い視野から捉えている。

私は西洋美術史・地中海考古学を専門にしています。この学問の魅力の一つはモノを通して過去の人々や社会を知ることにあります。美術館・博物館に展示されているモノには、それらを生み出した人々の価値観や在り方が刻まれています。プレミアム・カレッジに興味をお持ちの皆さんも、ぜひご自身の経験や関心を活かした研究に取り組んでいただきたいと思います。皆さんだからこそ調べてみたい問いがきっとあるはずです。カレッジ生仲間とともに、時に楽しく、時に真剣勝負で一緒に研究を深めていきましょう。

College Life

東京都立大学プレミアム・カレッジでの学生生活について

東京都立大学プレミアム・カレッジでは、充実したキャンパスライフを送っていただくため、カレッジ生専用のラウンジ、ロッカー室等の施設整備を行い学習環境の充実を図っているほか、学食や図書館、情報処理教室（パソコンルーム）といった学内施設の利用も可能です。また、都内の一部美術館等の割引等を受けることもできます。

受講料（授業料）について

- 本科・専攻科：年額２０万円（前期・後期に分けて納付予定）
- 研究生コース：年額１３万円（前期・後期に分けて納付予定）
  ※入学料はありません。

学生証（Student Card）

- カレッジ生には、学生証（Student Card）を交付します。
- Student CardにはIC機能が搭載されており、図書館への入場などが、ゲートへのタッチで可能です。

※イメージ



専用ラウンジ

- 南大沢キャンパス内に、カレッジ生専用のラウンジを設置しています。
- ラウンジには、ミーティングスペースや自習のためのスペース、憩いのスペースを設けているため、カレッジ生の学びと交流を深めていただくことができます。



専用ロッカー

- カレッジ生一人ひとりにロッカーを貸与します。
- 教材や研究関係資料等を保管し、キャンパス内での効果的な学習をお手伝いします。



情報処理教室（パソコンルーム）

- 情報教育授業やパソコンを活用する授業が行われるほか、授業時間以外の開室時間帯は、自習に利用できます。
- カレッジ生優先のスペースも整備し、情報処理環境の充実を図っています。



図書館利用（南大沢キャンパス）

- 東京都立大学の有する充実した図書館を活用することにより、カレッジ生の学びをサポートします。
- 南大沢キャンパスのほぼ中央に位置し、約７２万冊を数える蔵書のほか、「水野家文書」など貴重な古文書も収蔵。電子資料の提供や文献情報検索ツールを整備しているほか、ラーニング・コモンズ※を有し、多様な学習スタイルに対応しています。

※ラーニング・コモンズ…仲間で集い、議論し、共に学ぶための自主的な学習を支援する場のこと。



AVライブラリー

- 映画・音楽などのＤＶＤ、ビデオ、ＣＤを視聴したり、外国語教材を利用することができます。



その他（カレッジ生に対する主な支援など）

事　項	概　要
東京都立大学 オープンユニバーシティ 会員への加入	■ 東京都立大学プレミアム・カレッジ生は、自動的に東京都立大学オープンユニバーシティの会員となります。 ■ オープンユニバーシティの講座受講についても、会員価格での受講が可能です。 ※オープンユニバーシティについての詳細は、P.３３を参照
公益財団法人 東京都歴史文化財団の 管理する一部の都立文化施設	■ 一部の東京都歴史文化施設において、対象の展覧会等が無料（常設展等）又は割引（企画展・特別展等）で観覧可能です。
メールアドレスの付与	■ カレッジ生一人ひとりに、大学のメールアドレスを付与いたします。
パソコンの貸し出し	■ カレッジ生に対して、ＡＶ棟等でノートパソコンの貸し出しが可能です。
学内の情報処理システムの利用	■ 授業の課題提出等を学内のシステム上で実施するなど、充実したＩＣＴ環境の下で学ぶことができます。 ※必修科目「情報リテラシー基礎」（本科のみ）においても、利用方法に係る講義や演習を行います。（詳細P.８参照）
学生教育研究災害傷害保険 （学研災）	■ 学生（カレッジ生）が教育研究活動中に被った災害に対して必要な給付を行う制度です。
東京都立大学 ボランティアセンターの利用	■ 東京都立大学学部生等と同様、ボランティアセンターの利用が可能です。

※東京都立大学プレミアム・カレッジは、通学定期券・学割の対象外です。

東京都立大学プレミアム・カレッジでの過ごし方（イメージ）

東京都立大学プレミアム・カレッジの時間割は、東京都立大学の学部生等と同じ時期（前年度の冬以降）に決定する予定ですが、授業は、3限（13時00分～）、4限（14時40分～）、5限（16時20分～）を中心に実施しています。以下は、東京都立大学プレミアム・カレッジでの過ごし方のイメージ（時間割）となります。

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1限 8:50～10:20	キャンパス内をウォーキング	自宅で授業の予習・復習			
2限 10:30～12:00	AVライブラリーでDVDを視聴			科目等履修 （学部生と同じ授業を受講）	
昼休み	カレッジの仲間と学食で昼食		選択科目Bのフィールドワークで現場見学※	カレッジの仲間と学食で昼食	南大沢駅周辺で昼食
3限 13:00～14:30	ラウンジで仲間とゼミナールの打合せ			選択科目C （教養科目群）	図書館で授業やゼミナールの調べもの 
4限 14:40～16:10	前期ゼミナール 	選択科目A （プログラム科目群）		選択科目D （プログラム科目群）	
5限 16:20～17:50		選択科目B （プログラム科目群）		ボランティアセンターで学生と企画の打合せ	
課外	自宅で授業の復習、レポート課題の作成など				

※週のうち1日（水曜日）は授業を実施しない曜日とし、各授業で実施するフィールドワークの実施日としています。
（各科目でフィールドワークの実施日が重複しないよう調整しています。）
※あくまで、「過ごし方の一例」の「イメージ」となります。実際の時間割等と異なる場合がありますので、ご了承ください。
※カレッジ生の希望により、上限の範囲内でさらに履修科目を追加することも可能です。
（各科目履修の上限等の詳細はP.３０をご参照ください。）

Student's Voice

東京都立大学プレミアム・カレッジ生の声

Voice 01



宮渕 恵理子さん
本科
（2026年度入学）

いつもの風景が変わる、大学での学び

長年、医療や介護の仕事に携わり、定年を前に「このスキルを還元したいけれど準備は何もない」「これまで働き詰めだった分、楽しむ時間も欲しい」と今後の生き方に迷っていました。そんな中、キャンパスライフへの憧れからネットで検索し、出会ったのがプレミアム・カレッジです。ここなら新しい道標が見つかるかもしれないと期待を寄せ、手探りで受験準備を始めました。合格の喜びも束の間、授業の本格的な内容、特に研究を進めていくゼミの本気度を知り気後れもありましたが、温かく支えてくれたのは先輩や同期の存在でした。年齢も環境も異なる仲間ですが、フラットに思いを語り合える貴重な関係が生まれています。先輩方は自分の実体験で不安を和らげてくれ、同期とは悩みを共有しながら助け合っています。これまでの学校教育が「正解を覚える学び」だったとすれば、大学は「自ら問いを立てて答えを導き出す」主体的な学修です。課題に追われる大変さはありますが、思考を深めて言葉にし、書き認めることは、日々の見慣れた風景を意味深く、興味・疑問を持つ大切な時間になっています。貴方もここで、新しい自分らしさを発見してみませんか。

Voice 02



市川 太郎さん
専攻科
（2025年度入学）

学びだけでない人生をより豊かにするカレッジライフ

定年前に退職して大学で勉強したいと思っていたところ、新聞折り込みチラシでプレミアム・カレッジを知りました。入学すると江戸や人類の歴史、東京の自然環境、気象など多様な分野を学習でき、VRやGIS、電子顕微鏡なども体験できる授業もありました。多摩ニュータウンの開発や伊豆諸島の自然、都政課題等をフィールドワークにより現地で学ぶこともできます。何よりも様々な人生経験を積んでいる学友たちとの交流がとても刺激になります。同期生で登山の「七彩やまサークル」を結成し毎月登山や観光に行くほか、大学のテニスコートで午前中に仲間とテニスを楽しむこともでき、とても充実したカレッジライフを送っています。毎週のゼミでは活発な議論と指導教授の適切なアドバイスで研究を深め、修了論文発表前には図書館のプレゼンテーションルームを借りて自主的勉強会も開催しました。最近は、様々な施設見学などを同期生が企画する自主的フィールドワークも行われています。プレミアム・カレッジでの学びとここで培われた学友との交流が、あなたの人生にきっと華やかな彩を添えることが期待できます。



昨夏は木曽駒ケ岳、今年夏は乗鞍岳に宿泊して登山しました

Voice 03



椎野 耕司さん
研究生コース
（2024年度入学）

知の種を見つける喜び

私は2024年の入学以来、三つのゼミを経験しました。そこでの経験を通じて、「知の種は身の回りに満ちている」ことを実感しました。自分や仲間の研究に向き合う中で、新聞や雑誌、ネット記事、テレビ、さらには日常会話の中にも関連する情報が至るところにあることに気づきました。これまで気づかなかった世界が一気に拡がり、学ぶ楽しさを日々感じています。本科では、入学前から研究したかった「宇喜多秀家と八丈島の流人」をテーマにしましたが、途中で図書館に眠る古い文献の中に貴重なデータがあるのを発見し、それをもとに約1900人の流人の情報をExcelに入力、徹底分析する研究へと発展しました。入学前には想像もしなかった研究に挑戦できたことは、プレミアム・カレッジだからこそ得られた貴重な経験です。そして何より大きかったのは仲間の存在です。研究に悩んだときには同期から助言を受け、ゼミや仲間との議論を通じて新たな発想が生まれました。互いに学び合い、高め合える環境こそ、プレミアム・カレッジの最大の魅力だと思います。


同期生との八丈島卒業・懇親旅行

東京都立大学プレミアム・カレッジ修了生の声

Voice 01



大関 暁夫さん
研究生コース
（2025年度修了）

プレミアム・カレッジで人生に新たな彩（いろどり）を

私は仕事の傍ら、４年間プレミアム・カレッジに通わせていただきました。４０代で独立し企業支援業務を生業としていたので、企業不祥事の原因分析や企業風土改革を主な研究テーマとして取り組みました。ベテラン教員方による幅広いジャンルの授業も素晴らしいのですが、ゼミナールで社会経験豊富なゼミ生たちとの議論を通じて得られる刺激と気づきには、仕事では味わえない充実感がありました。そして何より、新たな友人たちとの楽しいキャンパスライフは、今の年齢で他では決して得られない貴重な体験です。修了後は、４年間の研究を仕事に活かしつつ、同期の友人たちとの交流も楽しく続けています。プレカレで人生に新たな彩をいただいたと感謝しています。

Voice 02



京極 陽子さん
研究生コース
（2024年度修了）

人生の宝物 ～ 第二の学びが開く新たな扉 ～

私はプレミアム・カレッジの本科・専攻科・研究生コースで３年間学びました。本科では久しぶりの学校生活のため論文のテーマを探す手探りの日々でしたが、専攻科・研究生コースへと進む中で明治期の女子教育に関心を持ち、「良妻賢母」をテーマに論文をまとめました。この研究を通じてさらに探究を深めたいという思いが強くなり、研究生在籍中に四年制大学への進学を決意しました。総合型選抜を経て、現在は大学で日本史を専攻、孫と同じ年頃の乙女達と共に学んでいます。カレッジで培った「考える力・まとめる力・伝える力」やプレゼンテーションの経験は、大学でのレポート作成やディスカッションなど、現在の学びに直結する大きな力となっています。自分の考えを分かりやすく伝え、他者の意見を受け止めながら議論を深める姿勢もここで身に付きました。さらに、かけがえのない財産となったのは、共に学んだ仲間との出会いです。励まし合いながら学び合った時間は、修了後も続く大切な宝物です。プレミアム・カレッジでの学びは、新たな挑戦への自信と、人生を豊かに彩る素晴らしい繋がりを与えてくれました。

Voice 03



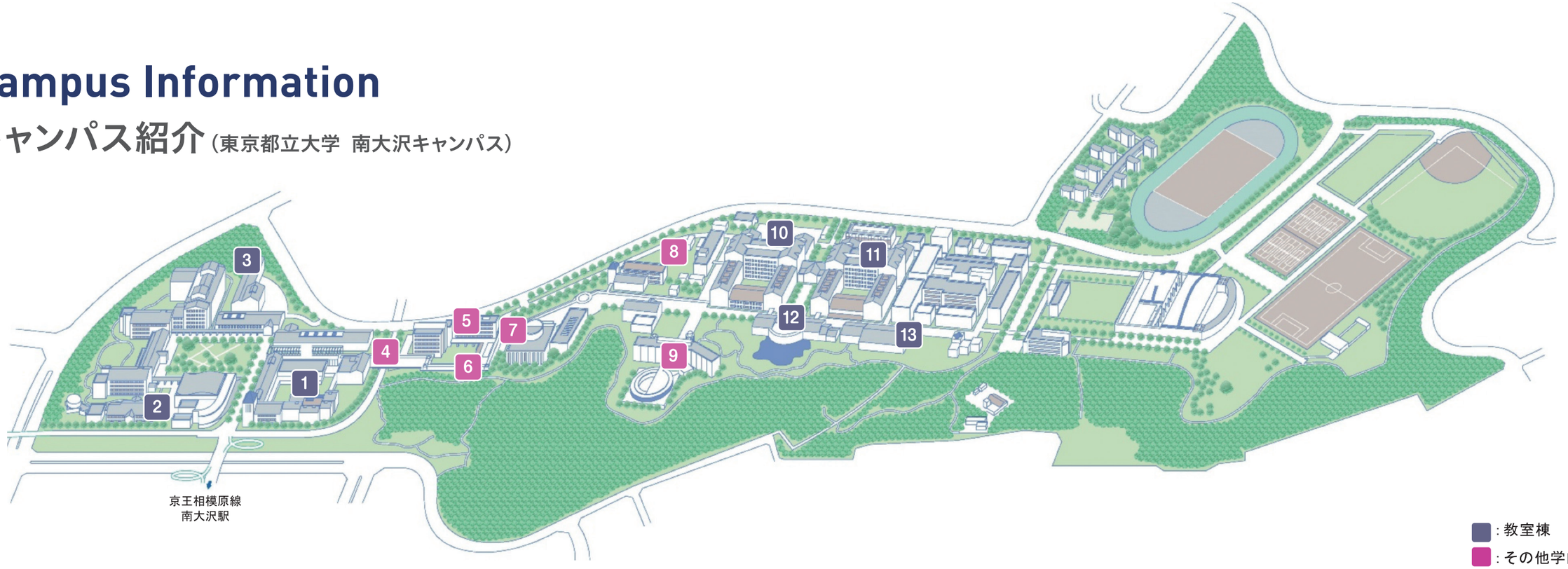
髙山 秋彦さん
専攻科
（2023年度修了）

カレッジで学び直し経験したことを糧に地域貢献活動へ

専攻科修了後は何をするか、入学当初漠然としていたのが２年間の学び直しの中で方向が固まりました。新卒で就職した会社を定年退職、仕事を充分にやりきった満足と次世代に引き継げたことで区切りとし企業組織雇用で再び働くことはないと考え、在学中から研究テーマの調査目的で地元自治体や市民団体に参加しました。現在も継続中の市民活動は「さがみはら生物多様性ネットワーク」会員兼広報部、神奈川の絶滅危惧種ミシマサイコという植物を保全育成する「相模原柴胡の会」事務局長を担当しています。在学中、ゼミ担当の先生は植物生態学、保全生態学、気候学、気象学のご専門でしたが、ゼミで直接指導頂くほか植物園・博物館、専門家の先生もご紹介頂く等、とても影響を受けました。文献調査・フィールドワーク、博物館の標本調査、相模原市の「水とみどりの基本計画・生物多様性戦略」確認で同市の水みどり環境課に接する機会が増えました。「都政課題」で東京都の取組みを実際に現場見学できたことも有意義でした。授業で小笠原諸島、多摩・島嶼の自然、江戸・東京の歴史など勉強・体験したことも自分の活動に活かす道標となり、会社中心生活を地域中心生活にシフトする契機になりました。

Campus Information

キャンパス紹介（東京都立大学　南大沢キャンパス）



1 1号館



３階建ての教室棟です。東京都立大学のシンボルである、光の塔があります。本カレッジの授業教室として、主に使用しています。

2 2号館



東京都立大学プレミアム・カレッジ専用ラウンジ、事務局がある建物です。

3 6号館



１階建てと４階建ての２つの建物からなる教室棟です。本カレッジの授業教室として、使用しています。

4 AV棟



２階建ての、視聴覚設備を備えた3教室とAVライブラリー（映画・音楽などを視聴したり、外国語教材が利用可能な部屋）のある施設です。

5 生協購買書籍部



書籍・文具など学習に必要なアイテムが揃います。コンビニも併設されており、学生生活には欠かせない施設となっています。

6 生協食堂



定食ばかりでなく、好みに合わせてセレクトできるリーズナブルな単品メニューが豊富。

7 図書館本館



図書館本館では、約７２万冊を数える蔵書のほか、「水野家文書」など貴重な古文書も収蔵しています。

8 情報処理施設



情報処理教室では、情報教育授業やパソコンを活用する授業が行われます。カレッジ生優先スペースがあります。

9 国際交流会館



学術交流に関する事業並びに外国人研究者等の宿泊に利用しています。建物内にはレストランがあります。

10 8号館　11 9号館



理系エリアにある8号館は8階建て、9号館は9階建ての建物です。理学部と都市環境学部の施設です。本カレッジの授業教室として、使用することがあります。

12 11号館



理系エリアにある3階建ての教室棟です。出入り口の反対側に調整池があります。本カレッジの授業教室として、使用することがあります。

13 12号館



理系エリアにある２階建ての教室棟です。本カレッジの授業教室として、使用することがあります。

Annual Schedule

年間スケジュール（予定）

2026年度

1月 本科入学選考、合格発表

2月〜3月 入学手続、入学前ガイダンス、
専攻科・研究生コース入学選考

2027年度

4月
入学式
履修等ガイダンス
前期授業開始





7月
前期授業終了
前期期末試験（科目等履修）

8月
夏季休業
夏季集中講座



9月
夏季集中講座

10月
後期授業開始
次年度カレッジ生向けイベント実施・出願受付開始



11月
次年度カレッジ生向けイベント実施

12月
冬季休業（年末年始）
次年度本科第一次選考結果発表



1月
次年度本科第二次選考及び最終合格者発表
後期授業終了
後期期末試験（科目等履修）

2月
専攻科・研究生コース入学選考
春季集中講座
成果発表会



3月
修了式

※予定は変更となる場合があります。

Entrance Examination

入学選考について（2027年度東京都立大学プレミアム・カレッジ本科生募集概要）

出願資格	次の条件を満たしている者 ●2027年3月31日現在、50歳以上の者。 （1977年（昭和52年）4月1日以前に生まれた者） ●日本国の高等学校を卒業した者。もしくはそれと同等とみなせる者。 （2027年3月までに卒業見込みの者を含む。）
募集人員	55名程度
出願期間	2026年（令和8年）10月10日（土）〜11月24日（火） （書類の提出は郵送のみ。上記必着） ※選考料の納入期限は同年11月20日（金）17:00まで。 ※出願書類と小論文※1（1,200字以上〜1,600字以内）を提出
選考方法	第一次選考　小論文（出願時提出） 第二次選考　面接※2（2027年1月9日（土）実施） ※第一次選考合格者を対象に第二次選考を行います。 一定の水準に達しない場合は、不合格となります。
選考料	10,000円
最終合格者発表	2027年（令和9年）1月22日（金）14:00（予定） ※同日、受験者に結果通知書を発送します。
受講料（授業料）	200,000円（年額） ※入学料はありません。

詳細は「2027年度　東京都立大学プレミアム・カレッジ入学選考本科カレッジ生募集要項」に掲載しています。
募集要項は、Webサイトからダウンロードいただくか、問合せ先（裏表紙参照）にご請求ください。

※1 小論文について

●東京都立大学プレミアム・カレッジを志望した理由を中心に、「これまでの人生」「カレッジでの新たな学びと交流」「カレッジ修了後の姿」の3点を交えながら、自分の言葉で論理的に記述してください。
（1,200字以上1,600文字以内）
●使用する様式、提出方法等の詳細は募集要項に掲載しておりますので、必ずご確認ください。

※2 面接について

●第二次選考（面接）は、第一次選考合格者の方を対象に、1人20分程度質疑応答を行います。
●出願の動機や、入学後の学び方、学んだことを修了後どのように活かしたいかなどについて、お答えいただきます。

Requirements for completion

修了要件、履修の上限、修了後について

修了要件

以下のとおり、年間で１５６時間以上（専攻科は「情報リテラシー基礎」、「研究を始める前に」を除く１４４時間以上）の履修等が要件となります。

■１５６時間以上の履修

区　分	科目名・科目分類	修了要件	
必修科目	前期ゼミナール	１８時間	【本科】 計１５６時間 【専攻科】 計１４４時間
	後期ゼミナール	１８時間	
	情報リテラシー基礎（本科のみ）	６時間	
	研究を始める前に（本科のみ）	６時間	
選択科目	プログラム科目群	７２時間（４科目）(※)	
	教養科目群	３６時間（２科目）(※)	
アディショナル科目	夏季・春季等集中講座等	修了要件には含めない	

（※）専攻科については、プログラム科目群、教養科目群の区別なく、選択科目から６科目以上履修することが修了要件です。

■ 修了論文の提出

定められた期限に、既定の方法で修了論文を提出し、審査に合格することが必要です。

■ 成果発表会でのプレゼンテーション

修了論文の内容について、成果発表会でのプレゼンテーションが必要です。

■ 修了要件の基本的な考え方

- 東京都立大学プレミアム・カレッジでは、単位制を採用せず、履修の時間単位で修了要件を定めています。
- 必修科目、選択科目については、原則、１.５時間（９０分）の授業を１２回実施します。
  従って、１科目を履修すると、原則１８時間履修したことになります。

履修の上限について（履修可能科目数）

選択科目の履修登録の上限はそれぞれ年間６科目（合計１２科目）となります。

区　分		年間履修登録の上限	
選択科目	プログラム科目群	１年間で６科目	計１２科目
	教養科目群	１年間で６科目	

※アディショナル科目については、履修登録の上限には含めません。

修了後について

■「東京都立大学プレミアム・カレッジ専攻科・研究生コース」への進学

本科修了後も、東京都立大学プレミアム・カレッジで引き続き学びたいという方は、選考を経た上で専攻科（１年間）に進むことが可能です。さらに、専攻科修了後、選考を経た上で研究生コース（最長２年間）へ進むことが可能です。カレッジでは最長４年間、充実した環境の下、仲間と共に学び続けることが可能です。

■ その他修了後の活動について

本学での学びを活かしたボランティア活動や地域貢献活動への参加、研究をさらに深めるために、入学試験を経て東京都立大学の学部や大学院への進学等も考えられます。

Frequently Asked Questions

FAQ（よくあるご質問・回答）

多くの方からお寄せいただいているご質問への回答を掲載しています。

Q1.　講演会等のイベントには参加できませんが、入学選考には影響ありませんか。

A　講演会等へのご参加の有無は、入学選考には一切影響しません。講演会等は、より多くの方に東京都立大学プレミアム・カレッジの魅力等を知っていただくための機会の一つです。
お時間がございましたら、ぜひご参加ください。

Q2.　東京都立大学プレミアム・カレッジは通学定期券・学割の対象となりますか。

A　東京都立大学プレミアム・カレッジは通学定期券・学割の対象とはなりません。

Q3.　東京都立大学のどのキャンパスに通うのでしょうか。

A　東京都立大学の南大沢キャンパス（八王子市）に通っていただきます。

Q4.　出願資格が「高等学校卒業した者」とありますが、大学卒業した人は資格があるということで良いでしょうか。

A　大学卒業、大学院修了の方ももちろん出願資格を有します。

Q5.　仕事に就きながらプレミアム・カレッジの授業を受講することはできますか。

A　週のうち1日は、授業を実施しない曜日を設定し、各授業で実施するフィールドワークの実施日としています。1週間の通学日数は、個人ごとに異なりますが、修了するためには、概ね週３日以上の通学が必要となります。具体的なモデルケースは、「東京都立大学プレミアム・カレッジでの過ごし方（イメージ）」（P.２３）を参考にしてください。

Q6.　在学期間は１年とのことですが、もっと学びたいです。１年で卒業しなければならないのですか。

A　１年の在学期間を修了した方が、もう１年学ぶための制度として、「専攻科」を設置しています。また、専攻科を修了した方が、さらに最長２年間学べる制度として「研究生コース」を設置しています。

Q7.　東京都立大学プレミアム・カレッジを修了すると、大学院の入学資格が得られるのですか。

A　東京都立大学プレミアム・カレッジを修了すると、学校教育法に基づく履修証明が交付されますが、学位を取得することはできません。大学院等への進学をご希望の場合は、所定の大学院入学試験等に合格する必要があります。修了後に大学院等での研究をご検討される方からのご相談にも応じています。

About Tokyo Metropolitan University

【参考】東京都立大学について

東京都立大学は、首都東京の大学にふさわしい人材育成や研究を行うことで大都市が抱える様々な問題の解決に貢献すること等を目的に、２００５年４月に都立の４大学を再編統合し、開学しており、現在約９，０００人の学生が学んでいます。

東京都立大学の使命

「大都市における人間社会の理想像の追求」

基本的な目標

世界有数の大都市である東京都が設置する総合大学として、グローバル社会を生き抜く「本物の考える力」を持った人材を輩出するとともに、基礎的な学問分野及び大都市課題を始めとする先端的課題を共に深く追究することにより、卓越した研究と質の高い教育の好循環を実現することを目指す。

所在地

- 南大沢キャンパス（八王子市南大沢）
- 日野キャンパス（日野市旭が丘）
- 荒川キャンパス（荒川区東尾久）





学生数

- 学生９，１２１人（学部６，９０３人、専攻科１０人、大学院２，２０８人）、教員６５５人
- 外国人留学生５０５人（学部５２人、大学院３５４人、その他９９人）　※学生数、教員数及び外国人留学生数は２０２６年５月１日現在

学部等構成

学　部	人文社会学部	大学院	人文科学研究科
	法学部		法学政治学研究科
	経済経営学部		経営学研究科
	理学部		理学研究科
	都市環境学部		都市環境科学研究科
	システムデザイン学部		システムデザイン研究科
	健康福祉学部		人間健康科学研究科
専攻科	助産学専攻科		
その他の教育・研究組織	大学教育センター		
	国際センター		
	学術情報基盤センター		
	総合研究推進機構		
	産学公連携センター		
	生涯学習推進センター		



Our Program of Lifelong Education

【参考】東京都立大学における生涯学習の取組

東京都立大学では、「東京都立大学プレミアム・カレッジ」の他に、「東京都立大学オープンユニバーシティ」として、一般教養から最先端の研究成果まで幅広い分野から受講できる仕組みや「科目等履修生」として大学講義の受講等、東京都立大学が有する豊かな教育研究資源を活用した学習が可能です。

例えば、こんな方におすすめです

- あらためて学ぶことの愉しさを感じ教養を深めたい
- 幅広いジャンルから関心のある講座を選択して学びたい
- 自分の時間に合わせて学び有意義に過ごしたい
- 大学の教授等から最先端の研究成果を学び最新の科学・技術情報を得たい
- アクセスの良い都心（飯田橋キャンパス）で東京都立大学の講座を学んでみたい

東京都立大学オープンユニバーシティ

会　場　**東京都立大学飯田橋キャンパス 他**
（東京都千代田区飯田橋3-5-1 東京区政会館3階）



有料（一部無料）で、日本や世界の文化、社会について学び考える一般教養講座から最先端研究の成果を学ぶ講座まで、幅広い公開講座を1講座から受講することができます。

年間約350講座
非常に多彩で幅広い講座を提供！

対面だけではなく、**オンライン講座**も開講！

■ 講座の申込には入会が必要です。（入会金3,000円）
■ 詳細は、HPをご参照ください。https://www.ou.tmu.ac.jp/

■ さらに、科目等履修生制度の活用や、大学院入試や学士入試を経た東京都立大学への進学等、幅広い世代の方々に、生涯を通じて東京都立大学で深く充実した学びの機会を提供します。

■ 東京都立大学　大学・大学院の入試案内はwebサイトをご参照ください。
https://www.tmu.ac.jp/entrance.html